

平成19年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	住民による下栗の里づくり事業
事業主体 (連絡先)	下栗里の会 (会長 野牧知利) (飯田市上村 1283 番地 TEL0260-36-2562)
事業区分	地域協働の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,050,000 円 (うち支援金 : 1,050,000 円)

事業内容

- 下栗の里「四季の歳時記」編纂・印刷、製本

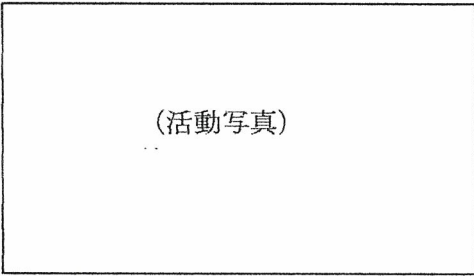
平成18年度事業にて内容調査、編集準備作業をした資料を元に写真を更新、文章校正、編集を加え、印刷、製本、発刊となった。

冊子はA5版40ページに、写真をふんだんに配置し、下栗の魅力を余すところ無く、紹介できた。また案内マップの作成は18年度事業の「遊歩道整備」を受けて、地域内の石仏等の紹介を記載する予定であったが、地域づくり講師の藤田愛知大教授のアドバイスにより、若干の変更を加え、しらびそ方面、南信濃方面を含めたイラストマップに17年度事業で整備したビューポイントの位置、写真を入れ込んだものを新たに作成、歳時記本文内容を分かりやすく示したものにした。裏面は今後写真コンテストの受賞作品などを掲載してゆくスペースとして活用していく。
- 写真コンテストの実施

「下栗の自然と暮らし」をテーマに写真を募集し、他地域から訪れるカメラマン、観光客の皆さんに、下栗の生活を時間をかけて見ていただき、山間地の別の魅力の発掘につなげることにした。

ポスター、チラシなどを作成し地区内、飯田市内などに配布。飯田市観光協会、長野県写真連盟、新聞各社の協力を得て公募した。

同時期に飯田教育委員会主催の「飯田市風景70選」写真コンテストがあり、こちらにも多くの下栗の風景写真の応募があり、南信州における下栗地区の「写真の里」づくりへの足がかりとなった。



【写真は別紙】

自己評価 (事業実施率) 【A】

● 講演会事業「地域づくり講演会」

.....「下栗の里」を熟知し地域性を理解している研究者、学識経験者をアドバイザーとして招き、研究会等を実施した。また、地域住民を対象とした講演会を実施して共通の認識を育むべく事業を展開した。...

○藤田佳久 愛知大学教授・大学院院長

平成19年11月11日に実施。約30名が参加。地元以外の研究者による地域の魅力の掘り起こし、再確認が得られ、また、藤田先生は遠山商工会が進める「遠山郷神様王国」のアドバイザーでもあり、地区内の遊歩道整備、歴史文化の観光資源としての魅力の再確認という見地でも助言をいただいた。...

○福島紀雄氏

平成20年3月6日に実施。約25名が参加。森や木を生かした里づくりという観点から、森林資源を生かした里づくり、エコツーリズムへの進展という立場で講演をいただいた。福島氏は地区内の基幹道路である村道3号線の開通から県職員として当地区に関係されており、森林を通してのこれからの下栗地区のありかたという点に重点をおかれた講話をいただき、今後の里づくりの方向性に新たな認識を見出した。...

事業効果

- ・ 行政に依存せず、地域住民自主的に活性化団体を組織し、部会を設けるなど企画を分担し、自主的に実施してきた事業である。
- ・ 集落創生交付金、コモンズ支援金を受けて、長期の計画で実施してきた事業の集大成という色合いも強く、歳時記の発刊は特色ある地域性の再発掘につながった。
- ・ 飯田市との合併に伴い、地域の自立的な活動が益々重要性を増す中でエコツーリズム等の環境的な取り組みの基礎部分として地区案内ガイドや来訪者の利便性を向上させ、ますますこの地域に深い興味と理解を示してもらえるようになった。発行からわずか数カ月でマップは配りきり、増刷を余儀なくされている。また歳時記(名付けて「下栗を歩こう」)
- ・ は、新聞報道などにより、遠方より問い合わせがあり郵送の要望もすでに十数件寄せられている。
- ・ 写真コンテストの実施により地域内の魅力の再確認と共に、来訪者が長時間滞在し、この地の生活に興味を持ってもらい、住民との交流が深くなった。
- ・ コンテストの応募は県内外より45名112点になり、同時期に開催された近隣自治体主催のコンテストの応募数を大きく上回る結果となった。コンテストの入選作品は著作権の帰属により、地区発行の情報冊子、パンフレットなどに活用していく。今後、「下栗の里」を「写真の里、スケッチの里」として発信していく足がかりにもなり、観光面でも新たな一面が期待できる。
- ・ 地域づくり講演会から、下栗地区が持つ地域性の長所を知ることが出来、今後の地域づくりに対して、住民共通の認識を持つことが出来た。
- ・ 商工会、森林組合、観光協会等、地域内の組織との連帯につながる大きな成果を生んだ。例：商工会(神様王国事業)、森林組合(自然環境再生セミナー)、観光協会(HPによる情報発信)

【目標・ねらい】

- 住民協働による里づくり
- 地域の魅力の発掘と情報化
- 住民の地域再認識の推進
- 誘客などの交流拡大による地域活性化

自己評価(目標達成率) **【B】**

今後の取り組み

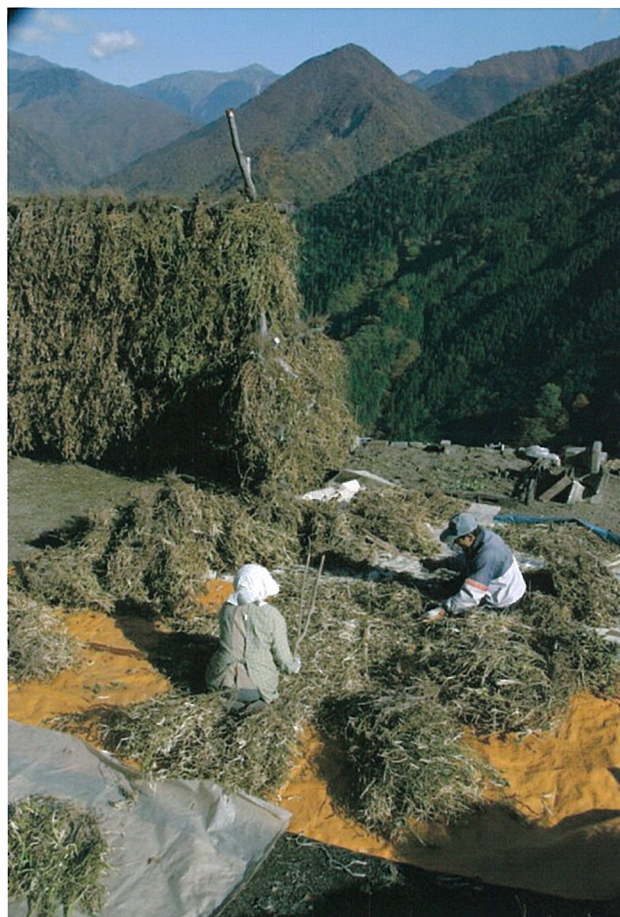
集落創生交付金、コモンズ支援金、元気づくり支援金と、重ねがさねの県による温かい御支援により下栗の里づくりを進めてきました。今お陰様で「下栗の里」は多くの方々の知るところとなり、訪れる方も着実に増えつつあります。今後はこの事業の成果を存分に発揮して、双方向の情報発信に努めながら、来訪者のニーズに合った滞在体験型の施策を進めねばと考えます。今年度も御支援戴きたいと希望している、下栗いも増産作戦など特産品開発に励みながら、山里の文化にもっと触れてもらう取り組みが大事かと考えます。地域活性化の糧となるような、交流人口があるかといえば未だ不十分、という想いで目標達成率の自己評価は「B」とさせていただきました。

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70～89%「C」50～69%「D」49%以下で示すこと。

歳時記編纂・刊行実績写真



写真コンテスト実績写真



最優秀賞作品



選考会風景



受賞者の皆さん

地域づくり講演会実績写真

11月11日 愛知大学大学院長 藤田佳久先生



3月6日 森林づくり木材利用コーディネーター 福島紀雄先生

